



【かにせ せいいち】

1950年生まれ。上智大学卒業後、米国AP・フランスAFP通信記者を歴任。87年から米国ミシガン大学大学院に留学、88年『TIME』誌特派員として帰国、91年TBS「報道特集」キャスターとしてテレビ報道界に転身。その後、文化放送「蟹瀬誠一、ネクスト」のパーソナリティ、「賢者の選択」(BS朝日)などのキャスターを務め、2004年から明治大学文学部教授、国際日本学部学部長を歴任、現在は同学名誉教授。23年5月よりSBI大学院大学学長も務める。特定非営利活動法人外交政策センター理事、価値創造フォーラム特別顧問、SPRIX教育財団理事、東京クラシッククラブ専務理事。

米軍によるホルムズ海峡「逆封鎖」や停戦交渉に世界の注目が集まるその陰で、地政学的に極めて重要な出来事が起きていた。

4月12日のハンガリー総選挙で、ロシアのプーチン大統領と米トランプ大統領が共に称賛してきた「非自由主義」の象徴、ビクトル・オルバン首相(62)が惨敗したのである。

欧州指導者の中で最長の16年間にわたり強権色を強め「EUの異端児」と呼ばれてきた親ロシア政権の退場は、ハンガリーだけでなく欧州政治における歴史的な転換点となった。

それはまた、反移民・反欧州連合(EU)の波に乗って躍進を遂げてきた各国の極右ポピュリズム政権の限界を感じさせる瞬間だった。

つまり、彼らの地政学的レトリックは結局のところ庶民の生活苦や経済格差に対する怒りに勝てず、長期ポピュリズム政権は独裁と腐敗が蔓延して国民の支持を失うということだ。秋に中間選挙を控えたトランプ政権にも少なから

興味深いのは、マジナル自身がかつてフィデス党の中核にいたエリート官僚で、長年極右オルバン体制を内側から支えてきた点だった。元妻も司法相を務め、政権中枢に深く関わっていた。しかし2024年、政権の目に余る汚職と権力乱用を内部告発して辞任。

時事刻

蟹瀬誠一

World-Scope

ハンガリー政変は世界的地殻変動への前兆か

ず当てはまるのではないか。

ポピュリズムからの解放

今回の選挙結果を現地メディア

反オルバン勢力の象徴として新興野党テイサの党首に転じた。

今回の選挙では、内部告発者としての社会的信頼と、保守層と若者の双方の広い支持を得て、歴史的な勝利を掴んだ。

改革に立ちはたかる難題

新政権の前途は決して平坦ではない。ハンガリー経済は長期停滞と財政悪化に苦しみ、欧州委員会の2025-27年予測でGDP成長率が0.4%から2.3%と低迷。インフレは3.6%と高く、財政赤字はEU基準を大きく超過している。公的債務もGDP比75%前後で上昇傾向にある。

さらにEUは、オルバン政権下での司法の独立性の欠如、公共調達の不透明さ・汚職リスクなどを理由に、ハンガリーに配分される公的資金総額約350億ユーロ(約5.5兆円)をこれまで凍結してきた。政権交代でその資金が解冻される期待は高まったが、EUは「選挙結果だけでは解凍しない」と明言しており、民主的改革の実

行が必須だ。

マジナル政権は8月までに復興基金計画を完成させ、EUとの関係修復でまず凍結された170億ユーロを取り戻すと公約している。市場は期待を示し、ハンガリー通貨フォリントは4年ぶりの高値を付けた。

しかし当面の最大の難関は、欧州で最も熟練した政治策士のひとりとして評されるオルバンの独裁体制の残滓だ。前首相は選挙敗北後も政治的影響力を保持しており、地方組織・メディア・官僚機構に深く根を張っている。そんな組織化された強力な野党による政治的妨害の可能性が指摘されている。

ハンガリー憲法では選挙が終わっても新議会の初会合まで最大30日の猶予がある。旧政府はこの期間を利用してマジナル政権の民主改革を阻止するような法的変更や人事で妨害することが可能だからだ。

加えて反ロシア姿勢を明確に掲げる新政権に対し、ロシアがエネルギー供給で圧力を強め、情報戦

持、さらにはロシアの野党陣営へのサイバー攻撃が指摘される中でも、ハンガリー国民は新たな指導者を選ぶことに躊躇しなかったからだ。

欧州連合寄りの新興野党「テイサ(尊重と自由)」は全199議席の内138議席を獲得し、憲法改正に必要な3分の2を超える議席を確保。一方、オルバンの率いる右派政党「フィデス・ハンガリー市民同盟」はわずか55議席に沈んだ。

深夜の首都ブタペスト、ライトアップされた議会議事堂前に集まった数万人規模の支持者たちは、テイサのペーテル・マジナル党首(45)が「祖国を解放した! 真実が嘘に勝った!」と宣言すると歓喜に包まれた。

その高揚感をハンガリーの作家で詩人のアンドラーシ・ペテーツは「ソ連崩壊時にブタペストにいた時の記憶を思い起こさせるものだった」とCNNのインタビュウに答えている。多くの市民にとって体制転換が実現したような劇的な感覚だったに違いない。

でも揺さぶりをかけてくるリスクも高い。つまり、経済再建+旧体制との戦い+ロシアの圧力という三重苦が待っているのだ。

人口減少も深刻だ。現在958万人(2026年)のハンガリーの人口は毎年0.4~0.5%のペースで減少している。これらの課題を前に、新政権がどこまで民主改革を進められるかは未知数だ。

ただし、千年以上にわたってオスマン帝国、ハプスブルク、ナチス、ソ連など周囲の大国の支配を受け続けた歴史を持つハンガリー人(マジナル)には、逆境を笑い、挑戦を恐れず、苦難を力に変える「マジナル魂」があるといわれる。今回の政権交代が、その精神を再び呼び覚ます契機となるのか。ハンガリーの新たな挑戦は、欧州政治の未来を占う試金石となりつつある。

2026年のハンガリー政変は、EUの結末、対ロシア政策、民主主義の行方、そして欧州の地政学的再編に影響を与える世界的な地殻変動の前兆として注目される。